

# カリキュラム・マネジメントによる教科横断的な教育課程の構築 ～いのちを大切にする教育を一例として～

大 舘 昭 彦\*・林 泰 成\*\*

(令和4年9月9日受付；令和4年11月21日受理)

## 要 旨

2017(平成29)年度の学習指導要領の改訂によって、カリキュラム・マネジメントが求められることとなった。これは、学習指導要領に準拠して、大雑把な言い方でまとめれば、児童生徒や地域、学校の実態に合わせて、教育の内容等を教科横断的な視点で組み立て、実施状況を評価してその改善を図り、人的、物的な体制を確保して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上をはかっていくことである。各学校に対して、ずいぶん自由な教育課程編成が認められているようにも思われるが、しかし、一方で、各教科の内容は、学習指導要領や検定教科書で縛られており、各教科や科目の授業時数も確定されている。こうしたカリキュラム・マネジメントを可能にするような一事例として「いのちを大切にする教育」の概要をとりあげ、検討した結果、①カリキュラム・マネジメントは、道徳や特別活動や総合的な学習の時間を中核に据えれば構築しやすい、②カリキュラム・マネジメントは、生徒の多面的な理解を支援できる、③カリキュラム・マネジメントは、学校教育の目的・方法・内容の改革の中で捉えられねばならない、ということが明らかになった。

## KEY WORDS

カリキュラム・マネジメント curriculum management 教科横断のカリキュラム cross-curriculum  
いのちを大切にする教育 education that values life 理科 science 道徳 morality

## 1 問題と目的

2017(平成29)年度改訂の幼稚園教育要領(文部科学省, 2017a)、および、小学校、中学校の学習指導要領(文部科学省, 2017b, 2017c)では、カリキュラム・マネジメントという用語が用いられるようになった(高等学校では2018(平成30)年度改訂から)。従来の学習指導要領でも教育課程の編成については記されていた。そこに、あえて「カリキュラム・マネジメント」という概念を導入し、各学校が「社会に開かれた教育課程」を独自に編成することを求めたところに意味があると言える(文部科学省, 2017e)。教育課程とカリキュラムは同じような意味で用いられることもあるが、ときには、教育課程は学校教育における公的に定められた教育内容を意味するのに対し、カリキュラムは、そうした内容を含み、かつ、非公的な教育内容をも含むものと解される<sup>1)</sup>。

学校教育において、児童生徒のどんな能力がどのように高まったのか、学びのプロセスがどのようなものであったのかなどを重要な問題として検討するなら、とうぜん、学校側が提供した教育内容ではなく、子どもたちがそこから学んで身に付けた教育内容の方が重要視されなければならない。児童生徒は、教えられたとおりに知識を身に付けるとは限らないし、ときには、児童生徒は、授業中に、教えられていること以上の気づきや学びを得ることもあるからである。けれども、そうした学びを場当たり的なものとして成り行きに任せておくというわけにはいかない。暗黙的な学びをも含めたカリキュラムを教育課程として編成し、実施することが学校教育には求められるのである。現行の学習指導要領では、「資質・能力の育成」や「主体的、対話的で深い学び」<sup>2)</sup>も強調されている。こうした一連の改訂内容から、今まで以上に、児童生徒の主体的な学びの成立を重視する立場に立っていると捉えることができるので<sup>3)</sup>、主体的な学びを支援するような教育課程の編成が求められる。

しかし、一方で、教育課程にはさまざまな縛りがある。各教科の目標や内容、その取扱いについても、学習指導要領に縛られている。また、それぞれの教科には教科書があり、それを用いた授業を実施しなければならず、また授業時数についても取り決めがある。文科省から出ている『学習指導要領解説総則編』を読むと、カリキュラム・マネジメントは非常に自由度の高いもののように思えるのだが、その実施は、実際にはなかなか難しい作業になるようにも思われる。

\*流山市立北部中学校 \*\*学長

カリキュラム・マネジメントの参考となるように、『学習指導要領解説総則編』の付録として、各教科や領域の内容から関連するものを抜き出した表がついている（文部科学省，2017d, 2017e）。たとえば、「放射線に関する教育」というテーマで、小学校なら「総則」，「国語科」，「社会科」，「特別の教科 道徳」，中学校なら「総則」，「国語科」，「理科」，「技術・家庭科」，「保健体育科」，「特別の教科 道徳」の関連する内容が抜き書きされている。けれども、具体的にどう扱うのかは示されていない。常識的に考えれば，放射線に関する教材を国語科の授業で扱ったからと言って，理科ではもう扱わなくてもよいというようなことにはならないだろう。カリキュラム・マネジメントと言えども，たどて言え，各教科を並べて，関連した内容に横串を刺すということしかできないのではないか。

カリキュラム・マネジメントがそうした試みだと考えると，学級担任がほとんどの教科を教える小学校と，教科担任制が中心になっている中学校・高校とではずいぶん事情が異なるように思われる。小学校では，たとえば，まだ学習していない円グラフが社会科の教科書に出てきても，小学校教員は，子どもたちがまだ学んでいないということを前提に教えることができる。ところが，中高の教員がそこまで他教科の学びを意識して自教科を教えているかと言え，そのような教員はそう多くはないと推測される。なぜなら，教員採用の際にとくに求められるのは専門教科の知識だからである。

そこで，単純な事例を基にして，具体的に，中学校でどのようにしてカリキュラム・マネジメントが可能なかを検討してみたい。中学校を例とするのは，一つには，上記のように教科担任制だとカリキュラム・マネジメントが実施しにくいのではないかと理由による。それと同時に，同じく教科担任制の高校への応用可能性があるのではないかと理由による。先にも言及した『中学校学習指導要領解説総則編』の付録では，「生命の尊重に関する教育」というテーマも示されている。そこには，中学校の場合として，「総則」，「理科」，「特別の教科 道徳」，「特別活動」の内容から関連事項が抜き書きされている。道徳科や特別活動は学級担任が担当するので，すべての教員に担当可能性がある。そこで，こうした例を基にして教科横断的な教育課程について検討することにしたい。なお，『中学校学習指導要領解説総則編』で例示されているテーマは「生命の尊重に関する教育」という表現になっているが，本稿では，「いのちを大切にすること」という表現を用いることとしたい。さまざまな教科や科目を横断して取り上げることを考えれば，生物学的な「生命」のみならず，それを超越するような文化的に理解された「いのち」を取り上げることになると考えられるからである。言い換えれば，科学的に扱うことのできる生命現象以上のことも含めて「いのち」という表現を使用することにする。

まず本章で問題と目的を明らかにしたうえで，次章では，あらためて，カリキュラム・マネジメントとはなにかについて検討する。そのうえで，3章では，筆者のひとり（大館）が，これまで実践してきた「いのちを大切にすること」をもとに，その概要を示し，4章において，その取り組みを反省的に検討する。5章では，以上の考察をもとに，カリキュラム・マネジメントによる教科横断的な教育課程の構築の要点と課題について明らかにする。

## 2 カリキュラム・マネジメントとは何か

前章で述べたように，本稿では，教科横断的な取組を取り上げる。しかし，その前に，あらためてカリキュラム・マネジメントとは何かということについて確認しておきたい。なぜなら，学習指導要領（第1章総則 第1の1）によれば，「各学校においては，…(略)…適切な教育課程を編成するものとし」（文部科学省，2017b, 2017c, 2018）とされ，教育課程の編成が各学校に委ねられていると判断できるものの，他方で，学習指導要領による教科内容の規程や，それを踏まえた検定教科書の存在があり，各学校が自由に教育課程を編成できるようにはなっていないようにも思われるからである。文部科学省の研究開発学校制度の指定を受けた学校では，学習指導要領の縛りを外して教育課程の開発研究に取り組むことが可能だが，これは，次期の学習指導要領の改訂に活かすための実験的な試みであり，多くの学校では，自由なカリキュラム・マネジメントは不可能に近い。というのも，従来，小中学校，高校では，学習指導要領に規定された教科や科目の区分にしたがって，検定教科書を用いた授業を実施し，その枠組みの中で，教師たちは工夫を凝らし，いかに教育効果を上げるかということに取り組んできたからである。その枠組みを残したままではいかにしてカリキュラム・マネジメントは可能なのであろうか。

学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントの定義を確認すると，「各学校においては，児童(生徒)や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと，教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと，教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする」（文部科学

省, 2017b, 2017c, 2018) と記されている。方法としては、①教科横断的な視点で教育課程を組み立てること、②実施状況を評価して改善を図ること、③人的、物的な体制を確保すること、の3つの側面が示されている。

この3点を、現行の学習指導要領の基となった中教審答申(中央教育審議会, 2016)にまでさかのぼって確認すると、「(資質・能力の育成を目指した教育課程編成と教科等間のつながり)」という項目で、「こうした組織体制のもと、これからの時代に求められる資質・能力を育むためには、各教科等の学習とともに、教科等横断的な視点に立った学習が重要であり、各教科等における学習の充実はもとより、教科等間のつながりを捉えた学習を進める必要がある」という書き出しで説明が記載されている。発想の順序からすると、資質・能力の育成という目的があり、そのためには教育課程編成において教科横断的な視点が不可欠で、それを実現するために、実施状況の評価と改善をし、人的または物的な体制の確保が求められると主張されているようである。

しかし、学校現場においてそうしたカリキュラム・マネジメントに取り組もうとすると、人的、物的な体制の確保には予算が必要になると思われるし、また、実施状況の評価・改善には、まず実施しなければ取り組めないのと、とりあえずは、教科横断的な教育課程を組むことから始めることになるだろう。しかし、各教科の学習の充実についても記されており、また、それは教科横断的な教育課程の前提ともなることから、求められているのは教科や科目の枠を取り外すような教育課程の編成ではないと考えられる。すると必然的に、カリキュラム・マネジメントとはいっても、教科横断的なテーマを探し出し、それに関連する教科や科目を連携させる作業が求められるということになるだろう。カリキュラム・マネジメントをそうしたものとみなして、次章では、実践の場でどうした工夫がなされているのかその一例を取り上げたい。

### 3 中学校における教科横断的教育課程「いのちを大切にす教育」の実際

現代は価値観が多様化し、さまざまな環境におかれた生徒たちが存在する。生徒指導上のさまざまな問題は、その大きさや内容に違いはあっても、学校種や規模に関係なく、どここの学校にも存在しているのではないだろうか。たとえば「いじめ」の問題一つをとってみても、文部科学省が毎年実施している問題行動調査(文部科学省初等中等教育局児童生徒課, 2021)によると、2020(令和2)年度のいじめの認知件数は2019(令和元)年度よりは減少しているものの、小学校では420,897件、中学校でも80,877件が報告されており、いまだ課題が多い実態がある。また、自死した児童・生徒の数は415件であり、さまざまな事由が原因ではあるものの、残念ながら近年も緩やかだが増加傾向にある。いずれにしても、児童・生徒に対して、「いのちを大切にす教育」を実施することは、喫緊の課題となっている。改めて述べるまでもなく道徳教育は、教育課程全体で実施されるものであり、それを補充・進化・統合する役割として道徳科の時間が設けられている。生命尊重の考え方については、学校が重点的に取り組むべき項目として取り上げることもできるが、それだけでは十分とは言えず、教育課程の中に明確に位置づける必要があるだろう。そこで、カリキュラム・マネジメントを活かして実践された「いのちを大切にす教育」を中心とした教科横断的な教育課程の編成を例示し、教育課程の構築について検討しよう。

カリキュラム・マネジメントの考え方を活かした教育課程を編成するとき、まず、①教育活動全体の関係をグランド・デザインとして描く、②学年の学習活動を俯瞰して単元配列表を描く、という二つのプロセスが必要である。また、これらに加えて、③それを学年全体の教育課程のまとまりの中で位置づける、ということも必要である。以上の三つのプロセスを想定しながら、これまで筆者のひとり(大館)が取り組んできた教育実践をもとに実際のカリキュラムの概略を提示してみたい。

#### 3. 1 教育活動全体の関係をグランド・デザインとして描く

中学生ともなれば、「いのちは大切なもの」ということは知識としては誰でも理解している。しかし、実際には行動が伴わない現実もある。子どもたちの体験不足が言われるようになって久しいが、核家族化や死を病院で迎えることが多くなったり、マンションなどでペットを飼うことすら難しい生活環境の中では、生徒たちの「死」に対する体験はたいへん乏しいと言わざるをえない。また、連日報道されている戦争の場面や新型コロナウイルス感染症についての問題も、自分たち自身は快適な部屋の中で過ごしながら、何の痛みも感じることなく映像としてそれを見ることができるとは、ある種の感覚を麻痺させてしまうことにもつながるのではないだろうか。そのような実態にある生徒たちの心に「いのちの大切さ」を深く刻み込んでいくためには、①生と死の両面から迫る教材で授業を行うこと、②喜びと悲しみの両方を学べる教材で授業をすること、③科学的な知見など、多面的・多角的に考えさせること、等が必要であると考えられる。

また、生徒たちはテレビゲーム世代である。バーチャルな世界の中で長時間生活し、何の躊躇いもなく、痛みをも感じることなく暴力や殺人をし、いのちのリセットを繰り返している。それゆえ「いのちの大切さ」について指導していかなければ、いのちの有限性や連続性、偶然性について思いをはせることのできない子どもたちが少なからず存在するようになってしまっているのではないか。そのような実態の子どもたちのところに深く切り込んでいくためには、計画性や教材の吟味が大変重要となる。

「いのちを大切に教育」というテーマを定めたなら、まず、テーマに関係する教科や領域の内容を検討する必要がある。このテーマに関しては、中核として道徳科を置くことが望ましいと判断した。なぜなら、道徳科では、「生命の尊さ」が教えるべき内容として学習指導要領で定められているからである。しかし同時に、理科でも生物領域では、生命に関する内容を学習する。その中からいのちの大切さにつながる内容を選び出し、道徳科の授業と時期を合わせるなどして、両方の学習において効果をあげることができる。さらに、探究課題に取り組む総合的な学習の時間は、横断的、総合的な課題として「いのちの大切さ」を設定することも可能である。これまでの実践を元にしなから、どのような内容で実施できるのかを見て行こう。

### 3. 1. 1 道徳科

まずここでの提案では、中学校3年生を例にあげる。道徳科を中心に、教科横断的教育課程を編成した。まずその中心となる教材に次の二つを位置づけている。

#### ① 「14歳、最後の手紙」(柳橋, 2012) D (19)<sup>4)</sup> 生命の尊さ 関連価値 C (14) 家族愛, 家庭生活の充実

重い心臓病にかかって亡くなった主人公「佐江子」が手術の3日前に母親に宛てて書いた手紙が中心の教材である。死ぬかも知れない大変な手術を前にして、佐江子の、今まで育ててくれたことへの感謝の気持ちや、小さい頃の思い出についての回顧や、現在の気持ちが綴られている。手術直前であるにもかかわらず、その手紙には生きることへの希望が溢れ、母親に対する感謝やいたわりの気持ちさえ書かれていた。死を恐れず、明るく前向きに生きようとする姿、そして母親に、「手術頑張ろうね」と呼びかける姿から、自他の生命の尊さを感じ、また強く生き抜こうとする心情を育てるのに適した教材と考えた。

#### ② 「おかあさん、産んでくれてありがとう」(大江, 2000) D (19) 生命の尊さ 関連価値 C (14) 家族愛, 家庭生活の充実

二枚の絵をもとに考える授業である。体の弱い女性が妊娠し、医者からは「出産すればあなたの命に関わる」と言われ悩んでいる。この女性が出産することに対してどのような決断を下したのか、そのことを中心に、いのちの大切さについて話し合う教材である。この女性は無事出産したが、1ヶ月後に出産が原因で亡くなってしまふ。しかし、母親として子どもに手紙を残していた。その手紙を紹介することで、展開後段へとつなげる。

事後指導として、ロールレタリング<sup>5)</sup>の手法を用いて、子どもの立場、母親の立場それぞれに手紙を書かせることを実施した。「誕生」から「死」へ、そして再度「生」へと変化していく流れの中で、生徒の心情により深く切り込み、「自らのいのち」についてもより考えることができた授業となった。

その他の教材として、道徳科の重点項目指導のために、「1枚のチラシから」と「山田さんのジレンマ」の二つの教材を、併せて実施することとした。

#### ③ 「1枚のチラシから」D (19) 生命の尊さ 関連価値 C (18) 国際理解, 国際貢献

国際援助を推奨するある1枚のチラシ、「発展途上国に米と粉ミルクを送ることを促すようなチラシ」を材料にして、その問題点をさまざまな角度から考え合う授業を展開した。「援助」という形の、人のために何かできることをしようとしたことが実は「害」を及ぼしていることがあるなど、生徒たちは思いもよらないことである。最近の中学生の傾向として、人間関係のスキルに欠けていると言われることがあるが、人との関わり合いが苦手な理由の一つとして、いわゆるさまざまな体験の不足が挙げられることもある。関連する価値として国際理解・国際貢献についても考えることとしているが、何の問題もないように思える先進国の援助が発展途上国を苦しめることになった例もあることに触れ、真にいのちを大切にすることや、何の問題もないように思われる国際援助が、実は相手の立場を十分に考えなかったことによって、かえって迷惑なことになっているという事例について考え合う授業を展開した。

#### ④ 「山田さんのジレンマ」D (19) 生命の尊さ 関連価値 C (10) 遵法精神, 公徳心

コールバーグ理論<sup>6)</sup>によるハインツのジレンマをもとにつくられた教材を使い、生命の尊重と遵法精神・公徳心という二つのプラスの価値についてのモラルディスカッションを実施した。友達の意見を聞きながら、どちらの判断が望ましいかをその理由と共に考えていく授業である。「いのち」というものを正面から考えるスタートの時間として実施した。教師は生徒たち各々の立場を尊重しながら話し合いに関わっていく。終末はオープンエンドとし、各自がさまざまな意見にふれながら最終的な判断理由付けを行うこととした。

### 3. 1. 2 理科

3年生で学ぶ生物領域を中心とした単元について、いのちの大切さについて結びつく内容を確認し、時期を合わせて道徳科の授業を実施することとした。使用している教科書(有馬ほか, 2021)では、三つの単元が、生命の問題を扱っている。一つめは、「単元2 生命のつながり」である。ここでは、「生物の成長と細胞」、「遺伝の規則性と遺伝子」、「生物の種類の多様性と進化」などを学びながら、生命の連続性に関する現象や、生物の多様性などを学ぶ。二つめは、「単元3 自然界のつながり」である。「生物どうしのつながり」や「自然界を循環する物質」などを学びながら、自然界のつり合いの現象などを学ぶ。そして三つめ「単元6 地球の明るい未来のために」では、「自然環境と人間」、「科学技術と人間」、「これからの私たちの暮らし」について考えながら、自然環境の保全や科学技術の利用の在り方などを学ぶ。こうした教科書の内容を見ると、科学技術ばかりではなく、理科の学習においても私たち人間の在り方生き方が問われているのだと言える。

### 3. 1. 3 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間では、いのちの大切さを教える教育を意識して、以下の2つの授業を実践した。

#### ①『家族への一言』

「生命の有限性・連続性・偶然性」につながる学びとして、『家族への一言』を出し合うという内容の授業を実施した。エクササイズ形式で実施をし、中学生らしい自分自身の家族に対する素直な思いを自由に述べ合い、学級全体で整理していった。感謝の言葉というよりも、実際にはたくさんの要望事項が並べられる形であったが、そのあとに、道徳科での授業を実施することにより、いのちの大切さ・生命尊重のことだけではなく、家族愛につながるようなたくさんの学びを得ることができた。

#### ②『依頼された死』

テレビ番組「依頼された死」を中心に構成している。「尊厳死」を扱った内容で、不治の病に冒された主人公と家族の気持ちの変化を描いたドキュメンタリー番組である。最後にこの番組を視聴し、「いのちとは」、「家族とは」、「生きるとは」、「いのちの尊厳とは」等々の内容について、今までの学びをもとにしてディスカッションすることでまとめの時間とした。

### 3. 1. 4 教科間の横断的關係

以上が、道徳科の二つの授業を中心において道徳科・理科・総合的な学習の時間をつなぎ、「いのちを大切に教育」に対するカリキュラム・デザインの内容の一部を示したものである。教育目標については、中学校学習指導要領の総則の第2の1に、「教育課程の編成にあたっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にすると共に、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする」とされている。これらの授業については、保護者から生徒たちへの手紙を書いてもらうため、授業のねらいを保護者会等の折に細かく説明し、その執筆を依頼したり、本校(中学校区)学校運営協議会(コミュニティースクールの協議会)での経営説明の際に取り組みを紹介し、小中連携の観点からも実際の様子等について説明するなど、保護者・地域への周知にも努めている。

全国どこの小・中学生に質問してみても、すべての子どもたちが「いのちは大切なもの」と答えるだろう。誰もが、それは知識として知っていることなのである。しかし実際には、前述したように中学生の自死も決して少なくはなっていないし、いじめなど生徒指導上の問題を見ても、自他のいのちに対する真の大切さを理解しているとは言えない。自分の生まれたことに感謝し、自分自身も他人も大切にすることができる教育は、絶対に必要なものである。

### 3. 2 学年の学習活動を俯瞰して単元配列表を描く

「いのちを大切に教育」として、各領域をつなぐ単元配列表を作成した。ここでは中心となる3つの教科・領域について示す。

表 1 各領域をつなぐ単元配列表

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
教科											
道徳科	山田さんのジレンマ	一枚のチラシから	余命ゼロ命のメッセージ	忘れられないご馳走	お母さん産んでくれてありがとう	十四歳最後の手紙	優介の決意	亡き母へのトランペット			
理科		環境協力師 山本敏晴 二人の弟子	二通の手紙	赤道直下に住むマウンテンゴリラ	単元2 生命のつながり ・生物の成長とふえ方 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・生物の種類と多様性と進化 ・探究活動	単元3 自然界のつながり ・生物どうしのつながり ・自然界を循環する物質 ・探究活動	単元6 地球の明るい未来のために ・自然環境と人間 科学技術と人間 これからの私たちの暮らし				
総合的な学習の時間				家族への一言				依頼された死			

注 道徳科で二重線は中心教材、破線は他の生命の尊重に係るもの、実線は関連する教材

各教科等の関連について意識しながら授業を行うことは、「何を理解しているか、何ができるか」、「理解していること・できることをどう使うか」そして「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」というこれらの資質・能力を育成するために大変有効な手立てとなりうる。それぞれの授業での学びを「深い学び」としていくために、さまざまな学び(知識)を関連付けたり、組み合わせることができるよう、教育課程を編成(デザイン)していくことが求められるのではないだろうか。

#### 4 考察

中央教育審議会答申によれば、カリキュラム・マネジメントには3つの側面が示されている。その中でも、「各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標に必要な教育内容を組織的に配列すること」が求められている。上記の具体例をもとに考察しよう。

まず、「いのち」についての学びに対する道徳科と理科との関係である。道徳科においては、内容項目D(19)「生命の尊重」として、なぜいのちが尊いのか、かけがえないものなのかということ、さまざまな教材に触れ、仲間たちとの話し合いを通して多面的・多角的に考え、自己を振り返りながら学んでいく。その学びの中で、「有限性」・「連続性」・「偶然性」について、それぞれのもつ意味について考え、いのちの尊さの理解へとつなげ、また尊重しようとする道徳的実践力を持たせることへと結びつけていくのである。道徳科の授業では、実際には目には見えないものである、それぞれの生徒の心の中を視覚的に表すことはできないが、自分自身の考えを言葉として語ることで、学びを深めていくのである。反対に理科の授業では、まず「生命のつながり」について学習するが、まずその中心として学習するのは「生命の連続性」についての内容である。生命がどのように誕生していくのか、からだの最小単位である細胞についてのしくみや、その生命体のもつ情報がどのように伝えられ、どう成長していくのかなど、観察や実験を通して科学的な見地から、いのちの仕組みそのものについて学んでいく。また、精細胞の核と卵細胞の核が受精し、染色体が情報をそれぞれ補い合っているいのちの源が生まれること、正常な精子の数は1500万個～2億5000万個といわれているが、その中の一つだけが受精できる、いわゆる偶然性によるものであること、減数分裂によって母親由来の遺伝子と父親由来の遺伝子が組み換えられてその情報が伝わっていくことなど、たくさんのいのちに関することを知識として学ぶのである。また、生命誕生の瞬間の映像を視聴したり、細胞分裂の様子を観察すること、あるいは遺伝子の抽出実験など、実際に目で観て、感じる事ができる。道徳科の学び方と理科での学び方はそれぞれの教科の

特質もあり、異なるものである。しかし、それらを関連させて学ぶことが単に科学的な知識としての学びだけではなく、背景にあるものを学び、道徳的な価値についての理解を実感を伴って深め、深い学びへとつながっていくことになるのではないだろうか。

今回示している道徳科の教材「お母さん、産んでくれてありがとう」では、教材として示すのは短い文章と二枚の絵である。しかし、実際に理科の時間では、母親のお腹の中で成長している胎児の様子や心音、心臓の動きなどを視聴している。また、卵割により1個の受精卵が成長し個体へと変化していく様も観察している。二つの教科を結びつけることで、より確かに、いのちの大切さについての考えを持つことができると考えている。反対に道徳科「14歳、最後の手紙」の授業で、母親の心情や主人公の思いについて学んでいることが、理科での教材を単なる「もの」として見るのではなく、すべての命あるものとして、真剣に向き合うようになるのである。それぞれを別々に、関わりのないものとして学んでいくことよりも、生徒たちの心に一人一人の納得解としてより深く刻まれるのではないだろうか。

納得解は、合理的な判断の結果として導き出されるものではないように思われる。まずは自分が納得できるかどうかである。しかし、それでは独りよがりな結論でしかないという批判を受けることになるだろう。そこで、付け加えて主張されるのが、他者を納得させられるかどうかということなのである。自分が納得でき、かつ、他者を納得させられるような解ということである。しかし、それは正解ということではなく、唯一解ではない。集団の中では複数の納得解が存在するというようなことも起こりうる。そうした場合、その集団の中の道徳的価値観や価値理解<sup>7)</sup>の多様性を互いに認め合うことが求められることになるだろう。

以上のような捉え方をすると、道徳に偏った見方ではないかとも思われよう。たしかに、合理的な考え方や数学などに関して横断的なテーマを設定するなら納得解というような解の出し方では問題があるだろう。しかし、世界観や人生観などさまざまな種類の価値観を扱わざるをえないテーマを設定すると、納得解や多様性を受容するものの見方を前提しておかなければ、議論そのものが成り立たなくなってしまう。ここでは、理系と文系というような安易な分割を主張したいわけではない。すでに本稿でも明らかなように、理科でも、生物領域ではいのちの大切さに関わる事項が扱われているし、道徳教育に対しても、理科での学習が効果的な影響を与えていると判断できる。理科と道徳と言えども、生物領域に限定して「いのち」を中心に見ると、分断よりも連続を感じ取ることができる。

ところで、ここまでは、教科横断的なカリキュラム・マネジメントについて考察してきたが、教科横断的な教育課程の構築が、各教科独自のものの見方・考え方に悪影響を及ぼすということはないのだろうか。

教科横断的な視点から言えば、むしろ各教科は、各教科における独自のものの見方や考え方、また独自の学習内容をしっかりと教えるものでなければならぬ。そうでなければ、その教科を他教科・他領域と結びつける意味がないということになってしまうからである。しかし、一方で、各教科の親学問<sup>8)</sup>の立場からすれば、子どもたちにしっかりとその学問の基礎基本を教えてほしいということになるのではないか。この問題は、各教科とそれぞれの親学問との関係性にも影響される。数学のように、教科とその親学問がはっきりしているものもあれば、理科や社会のように、一つの教科の中に、さまざまな親学問が入り込んでいるものもある。道徳科のように、親学問がはっきりしないものもある<sup>9)</sup>。現行の学習指導要領の考え方は、資質・能力の開発が中心になっていると考えられるので、カリキュラムとしてはかならずしも学問中心主義ではないが、しかし、そうだとすれば、各教科の内容構成は何に基づいて構築されることになるのだろうか。このあたりの議論は、教科内容学や教科内容構成についての議論として展開すべきであろう<sup>10)</sup>。

## 5 結語

最後に、論述してきたことの中からカリキュラム・マネジメントの要点を抜き出すことで結論としたい。

①カリキュラム・マネジメントは、道徳や特別活動や総合的な学習の時間を中核に据えれば構築しやすい。

各学校の教育課程は、社会に対して開かれたものとするのが求められている（中央教育審議会、2016）。そう捉えれば、学級ごとに勝手にマネジメントするというわけにはいかない。学校全体の取組として特色のある教育活動を行い、保護者や地域社会と共通理解を図ることが必要である。その場合、とりわけ教科担任制の中学校では、道徳科の授業は学級担任が担当することになっているという意味で、道徳科を中核に据えるのが取組みやすいと言える。特別活動や総合的な学習の時間も、同様の理由で、中核に据えるのに向いている。

②カリキュラム・マネジメントは、生徒の多面的な理解を支援できる。

ある一つのテーマを、さまざまな教科や領域から考えてみるということは多面的に理解するということでもある。

そしてそうした理解は、深い学びの一面でもある。カリキュラム・マネジメントによってそうした学びを支援することができる。

③カリキュラム・マネジメントは、学校教育の目的・方法・内容の改革の中で捉えられねばならない。

この点は、注意点でもある。学習内容を教科や領域を横断して取り扱うということは、それがどのような能力を伸ばすためのものであるのか、どのような指導法がよいのか、どのような評価が可能なのか、常に総合的に考える必要があろう。いったん、教育政策の方向性が示されると、それをいかに効率よくこなすかというところに力が入ってしまうことがある。しかし、教育の主体は児童生徒であるということが基本である。マネジメントによって児童生徒の支援がより行きやすいという方向性を目指すべきであろう。また、一つの単元として構築された教育課程は、学年全体の教育課程の中でどのように位置づけられるのかも検討しなければならない。資質・能力の育成は、ある特定の状況で力を発揮できればよいということではない。それは、分断された知識の獲得ではなくて、応用可能な総合的な学力を身に付けるということだからである。

考察を進めながら、気になった点を2点あげる。

一つは、「深い学び」の意味である。学習指導要領の中でも、重要なキーワードでありながら、それを、量的に把握できないものとして捉えてしまうと、どうなれば深い学びが成立したことになるのかが理解しにくい。しかし、だからといって、量的に把握可能なものとする、国語や道徳科の視点からは反論がでるのではないと思われる。

もう一つは、教科独自の専門的な内容と、教科横断的に学ばれるテーマとの関係である。本稿では、教科の専門的な内容についてもしっかりと学ぶという立場に立っている。しかし、育成の目的としての資質・能力が汎用的なものであるとすれば、教科横断的なアプローチで取り上げれば、少なくとも義務教育段階では専門的に取り上げなくてもよいのではないかという主張も成り立ちうるように思われる。

いずれにせよ、要点としてあげた3点も、気になる点として挙げた2点も、本稿のような実践的な取組の振り返りに基づく論考では、実証された確定的な結論としては示せない。こうした点を、今後、実証的な手法で確認していく必要があるが、そうした取組は今後の課題としたい。

## 注

<sup>1)</sup> たとえば、明示されていないにもかかわらず、子どもたちが暗黙の内に学ぶ教育内容を、「暗黙のカリキュラム」とは言うが、「暗黙的教育課程」とは言わない。

<sup>2)</sup> 中央教育審議会（2012）で「アクティブ・ラーニング」が取り上げられ、それが学習指導要領に取り入れられた際には、「アクティブ・ラーニング」ではなく、「主体的、対話的で深い学び」となっていた。おそらく、松下（2015）らによる、アクティブなだけではだめでディープでなければならないというような主張があったためと推測される。しかし、その後、文科省のウェブ上に公開された英語訳では“proactive, interactive, and authentic learning”という英語表現が使用されており、深い学びは、「真正の学び」あるいは「ほんとうの学び」とでも訳されるようなものとなっている。本稿の他の箇所でも「深い学び」に言及しているが、さらなる議論の必要な概念であるということをお断りしておきたい。

<sup>3)</sup> OECD（2015）で取り上げられている「エージェンシー」の概念をみると、こうした主体的な学びの重視は、日本だけの話ではなく、国際的な動向と言える。エージェンシーは、「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力」と捉えられている。白井（2020）を参照。

<sup>4)</sup> この記号と番号は、文部科学省（2017c, 2017e）で示された道徳科の内容に与えられているものである。

<sup>5)</sup> さまざまな立場で手紙を書かせることをとおして、自らの考えや気持ちなどの整理を行う技法。心理療法の一種。岡本茂樹（2012）を参照。

<sup>6)</sup> 心理学者ローレンス・コールバーグの道徳性発達理論に基づく道徳教育理論。

<sup>7)</sup> ここでは、道徳的価値観は、複数の道徳的価値についての総体的な捉え方を意味し、道徳的価値理解は、個々の道徳的価値についての理解を意味している。両者の関係については、林（2022）を参照。

<sup>8)</sup> 親学問という表現はあまり一般的ではないかもしれない。ここでは、教科（あるいは科目）の延長線上にある学問、あるいは、その教科（あるいは科目）で取り上げる内容を探究する学問を意味している。

<sup>9)</sup> 倫理学がそうだという意見もあるかもしれない。この点に関して、林（2009）は、道徳教育は既存の学問に依拠させにくいので、道徳教育実践学とでも言うべき新たな学問分野を構築すべきだという主張を行っている。

<sup>10)</sup> 教科内容学については、教科内容学会の紀要などを参照。



## 引用文献・参考文献

- 有馬朗人ほか（2021）『理科の世界3』大日本図書
- 中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」（平成24年8月28日）
- 中央教育審議会（2016）「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日）
- 林泰成（2009）『新訂道徳教育論』放送大学教育振興会
- 林泰成（2022）「道徳的価値の理解と道徳的価値観の形成」（日本道徳教育学会『道徳と教育』第341号所収）
- 松下佳代（2015）『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房
- 文部科学省（2017a）幼稚園教育要領
- 文部科学省（2017b）小学校学習指導要領
- 文部科学省（2017c）中学校学習指導要領
- 文部科学省（2017d）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』
- 文部科学省（2017e）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』
- 文部科学省（2018）高等学校学習指導要領
- 文部科学省初等中等教育局児童生徒課（2021）「令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」（令和3年10月13日）
- OECD（2015）*Learning Compass 2030*
- OECD（2018）*Education 2030 (Learning Framework 2030)*
- 大江浩光（2000）「おかあさん，産んでくれてありがとう」（大江浩光『「いじめ」の授業』明治図書所収）
- 岡本茂樹（2012）『ロールレタリング』金子書房
- 白井俊（2020）『OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来』ミネルヴァ書房
- 柳橋佐江子（2012）「14歳，最後の手紙」『中学道徳 心つないで 2年』教育出版

# Construction of a Cross-curriculum through Curriculum Management: In the Case of Education that Values Life

Akihiko OHDATE\* · Yasunari HAYASHI\*\*

## ABSTRACT

Curriculum management was required due to the revision of *the Course of Study* in 2017. Roughly speaking, according to *the Course of Study*, this means that educational content is assembled from a cross-curricular perspective following the actual conditions of students, communities and schools. Furthermore, it means evaluating the implementation status, securing the required human and material systems and systematically improving the quality of educational activities at each school based on the curriculum. It appears that each school is allowed to organize its curriculum quite freely. However, the content of each subject is bound by *the Course of Study* and certified textbooks, and the number of class hours for each subject is fixed. Under these circumstances, how can curriculum management be possible? The current paper examines this point by taking up an outline of “education that values life” that an author has been working on as an example. As a result, it became clear that (1) curriculum management is easier to construct if morality, special activities, and comprehensive learning are placed at the core, (2) curriculum management supports students’ multifaceted understanding, and (3) Curriculum management must be understood in reforming the purpose, method, and content of school education.

---

\* Nagareyama Municipal Hokubu Junior High School \*\* President